

# 履 歴 書

2012(平成24)年2月24日現在



ふりがな おかの えいじ 氏名	岡野 衛士	※男・女
1970(昭和45)年4月26日生	本籍 大阪市	
ふりがな ちばけんいちかわし 現住所 千葉県市川市		Tel:
ふりがな ちばしいなげとどろきちよう3ちようめ59-5 ちばけいざいだいがくけいざいがくぶ 連絡先 千葉市稲毛区轟町3丁目59-5 千葉経済大学経済学部		Tel: 043-253-9*** (直通) 043-253-9111 (代表) Fax: 043-254-6600 E-mail: e.okano@cku.ac.jp

年 月	学歴
1989(平成元)年3月	同志社香里高等学校卒業
1989(平成元)年4月	同志社大学商学部入学
1993(平成5)年3月	同志社大学商学部卒業, 同志社大学学士(商学)
2000(平成12)年4月	一橋大学大学院商学研究科修士課程経営学修士コース入学
2002(平成14)年3月	一橋大学大学院商学研究科修士課程経営学修士コース修了, 一橋大学修士(経営)
2002(平成14)年4月	一橋大学大学院商学研究科博士後期課程入学
2005(平成17)年3月	一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了, 一橋大学博士(商学)
年 月	職歴
1993(平成5)年4月	藤沢薬品工業株式会社(現アステラス製薬株式会社)入社
2000(平成12)年4月	藤沢薬品工業株式会社退職
2003(平成15)年10月	一橋大学大学院商学研究科教務補佐員(ティーチングアシスタント)
2004(平成16)年3月	一橋大学大学院商学研究科教務補佐員(ティーチングアシスタント)任期満了
2004(平成16)年11月	一橋大学大学院商学研究科教務補佐員(ティーチングアシスタント)
2005(平成17)年2月	一橋大学大学院商学研究科教務補佐員(ティーチングアシスタント)任期満了
2005(平成17)年4月	千葉経済大学経済学部経済学科専任講師
2008(平成20)年4月	千葉経済大学経済学部経済学科准教授, 現在に至る
2008(平成20)年8月	米国コロンビア大学日本経済経営研究所客員研究員
2009(平成21)年7月	米国コロンビア大学日本経済経営研究所客員研究員任期満了
年 月	免許および資格
	該当無し
年 月	賞罰
	該当無し

## 博士学位論文

題目 インフレターゲットリング: ニューケインジアンオープンエコノミーマクロ経済学の視点

指導教官 小川英治 (主), 釜江廣志 (副), 渡辺努 (非公式).

審査員 釜江廣志 (主査), 清水啓典, 小西大.

## 所属学会

アメリカ経済学会 2008年6月入会, 現在に至る.

日本金融学会 2003年10月入会, 現在に至る.

日本経済学会 2003年10月入会, 現在に至る.

日本生活経済学会 2005年5月入会, 現在に至る.

## 奨学金・助成金

日本学術振興会 科学研究費補助金若手研究(スタートアップ), 2006年8月~2008年3月.

国際交流基金日米センター/米国社会科学研究評議会 安倍フェローシップ(2007年フェロー), 2008年8月~2009年7月

全国銀行学術研究振興財団 研究助成, 2010年1月~2010年12月

文部科学省 科学研究費補助金若手研究(B), 2010年4月~2013年3月.

## 担当科目

**マクロ経済学** マクロ経済学 I (学部), 千葉経済大学 (2005年度通年, 2006年度後期, 2007年度後期, 2008年度前期); マクロ経済学のトピックス (学部), 千葉経済大学 (2010年度前期).

**経済学一般** 経済学入門 (学部), 千葉経済大学 (2010年度通年, 2011年度通年); 外書購読 (学部), 千葉経済大学 (2009年度後期, 2010年度後期, 2011年度後期)

**金融論** 銀行論 (学部), 千葉経済大学 (2009年度後期, 2010年度前期); 証券市場論 (学部), 千葉経済大学 (2009年度後期, 2010年度後期); 国際金融論 I (学部), 千葉経済大学 (2010年度前期, 2011年度前期); 国際金融論 II (学部), 千葉経済大学 (2010年度後期, 2011年度後期).

**その他** 情報リテラシー入門 (学部), 千葉経済大学 (2005年度前期).

## 研究分野

国際マクロ経済学, 国際金融論, 金融政策, マクロ経済学

## 公刊済み及び公刊予定学術論文

### 査読付き

1. “Optimal Monetary and Fiscal Policy in a Currency Union with Nontradables,” *Macroeconomics and Finance in Emerging Market Economies*, 3, 2010年3月, 1~23 ページ.
2. “Has Inflation Targeting Improved Social Welfare in Practice?” *Applied Economics Letters*, 15, 2008年1月, 23~26 ページ.
3. “Inflation--Output Trade-offs in an Optimization-based Econometric Framework Applied to an Open Economy: The Case of Japan,” *Journal of Asian Economics*, 18, 2007年2月, 98~124 ページ.

4. “The Choice of the Inflation Rate as a Target in an Economy with Pricing to Market,” *Japan and the World Economy*, 19, 2007年1月, 48～67 ページ.
5. 「インフレターゲットがもたらす社会厚生の実証分析-イギリスのケース-」, 内閣府経済社会総合研究所『経済分析』, 第175号, 2005年3月, 81～104 ページ.
6. 「市場別価格設定行動とインフレターゲット」, 日本金融学会『金融経済研究』, 第21号, 2004年12月, 68～91 ページ.
7. 「小国開放経済でのインフレターゲットと名目為替相場ターゲット」, 一橋学会『一橋論叢』, 第129巻第5号, 2003年5月, 175～200 ページ.

#### 査読なし

1. (小川英治と共著)「欧州ソブリンリスクと金融政策」, 財務総合政策研究所『フィナンシャル・レビュー』, 近日刊行予定.
2. 「日本へのインフレターゲットの導入に関する一考察」, 中央大学企業研究所『企業研究』, 第8号, 2006年2月, 47～68 ページ.
3. 「インフレターゲットによるインフレと産出のトレードオフの解消-より現実的な設定での考察-」, 一橋研究編集委員会『一橋研究』, 第29巻第2号, 2004年7月, 1～6 ページ.
4. 「インフレターゲット: 開放経済モデルでの展開」, 一橋研究編集委員会『一橋研究』, 第28巻第4号, 2004年1月, 1～9 ページ.
5. 「なぜインフレターゲットか? 動学的非整合性からインフレターゲットまでの議論とその変遷」, 一橋研究編集委員会『一橋研究』, 第28巻第1号, 2003年4月, 1～16 ページ.

#### 未公刊学術論文

1. (with Masataka Eguchi, Hiroshi Gunji and Tomomi Miyazaki) “Optimal Monetary Policy in an Estimated Local Currency Pricing Model,” *IER Discussion Paper Series*, No. A558, 2012年1月.
2. “How Important is the Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?” *EUSI Working Paper Series*, No. E-2010-02, 2010年6月.
3. “Optimal Monetary Policy and Nominal Exchange Rate Volatility under Local Currency Pricing,” *EUSI Working Paper Series*, No. E-2010-02, 2010年12月.

#### 学会参加

##### 報告

1. 2011年11月, 10th Annual Advances in Econometrics Conference, Southern Methodist University (Dallas, TX, 米国).
2. 2011年9月, The European Conference on Banking and the Economy, Winchester Guildhall (Winchester, イギリス).
3. 2011年5月, 日本金融学会 2011年春季大会, 明治大学 (東京都).
4. 2011年5月, 2011 Midwest Macroeconomics Meetings, Vanderbilt University, (Nashville, TN, 米国).
5. 2011年3月, The 3rd International Conference of Macroeconomics and Policy, 政策研究大学院大学 (東京都).
6. 2010年9月, 39th Australian Conference of Economists (ACE10), Dockside, (Sydney, オーストラリア).

7. 2010年9月, Money, Macro and Finance Research Group 42nd Annual Conference (MMF2010), Cyprus University of Technology (Limassol, キプロス).
8. 2009年12月, 第11回マクロコンファレンス, 大阪大学 (大阪府).
9. 2009年11月, 「財政政策の政治・経済分析」コンファレンス, 名古屋学院大学 (名古屋市).
10. 2009年10月, 日本経済学会 2009年秋季大会, 専修大学 (川崎市).
11. 2009年6月, International Conference on Policy Modeling (EcoMod2009), University of Ottawa (Ottawa, ON, カナダ)
12. 2009年5月, The 13th International Conference on Macroeconomic Analysis and International Finance, University of Crete (Rethymno, ギリシャ).
13. 2009年4月, The Society for Nonlinear Dynamics and Econometrics 17th Annual Symposium, Federal Reserve Bank of Atlanta (Atlanta, GA, 米国).
14. 2009年1月, 11th Annual Conference on Money and Finance in the Indian Economy, Indhira Gandhi Institute of Development Research (Mumbai, インド).
15. 2008年12月, Conference on European Financial, Monetary and Fiscal Integration, Maastricht University (Maastricht, オランダ).
16. 2007年6月, 日本経済学会 2007年度春季大会, 大阪学院大学 (大阪府).
17. 2007年5月, 日本金融学会 2007年度春季大会, 麗澤大学 (千葉県).
18. 2006年9月, The Journal of Asian Economics Conference on Financial System Reform and Monetary Policies in Asia, 一橋大学 (東京都).
19. 2005年12月, 第2回浜名湖カンファレンス, ホテル白砂亭 (浜松市).
20. 2005年12月, 第4回現代経済政策研究会議, 関西社会経済研究所 (大阪市).
21. 2005年6月, 日本経済学会 2005年度春季大会, 京都産業大学 (京都市).
22. 2005年5月, 日本金融学会 2005年度春季大会, 日本大学 (東京都).
23. 2004年10月, 日本金融学会国際金融部会, 一橋大学 (東京都).
24. 2004年9月, 日本経済学会 2004年度秋季大会, 岡山大学 (岡山県).
25. 2004年9月, 日本金融学会 2004年度秋季大会, 愛知大学 (名古屋市).
26. 2004年3月, 第1回浜名湖カンファレンス, かんぼの宿三ヶ日 (浜松市).
27. 2003年10月, 日本金融学会 2003年度春季大会, 滋賀大学 (滋賀県).
28. 2003年10月, 日本経済学会 2003年度秋季大会, 明治大学 (東京都).

## 討論

1. 2011年12月, The International Conference of Joint Research Group “EU Economy” of EUSI in Tokyo, 慶應義塾大学 (東京都).
2. 2011年11月, 生活経済学会関東部会, 一橋大学 (東京都).
3. 2011年10月, 日本経済学会 2011年秋季大会, 筑波大学 (茨城県).
4. 2011年10月, 日本経済学会 2011年秋季大会, 筑波大学 (茨城県).
5. 2011年9月, 日本金融学会 2011年秋季大会, 近畿大学 (大阪府)
6. 2010年12月, The International Conference of Joint Research Group “EU Economy” of EUSI in Tokyo, 一橋大学 (東京都)
7. 2010年11月, 日本応用経済学会 2010年度秋季大会, 高崎経済大学 (群馬県).

8. 2010年9月, 日本金融学会 2010年度秋季大会, 神戸大学 (神戸市).
9. 2009年5月, The 13th International Conference on Macroeconomic Analysis and International Finance, University of Crete (Rethymno, ギリシャ).
10. 2008年6月, 日本経済学会 2008年度春季大会, 東北大学 (仙台市).
11. 2007年6月, 日本経済学会 2007年度春季大会, 大阪学院大学 (大阪府).
12. 2007年3月, 第3回浜名湖カンファレンス, かんぼの宿三ヶ日 (浜松市).
13. 2006年12月, The 2nd East Asia Accounting and Finance Conference, 長崎大学 (長崎県).
14. 2006年10月, 日本経済学会 2006年度秋季大会, 大阪市立大学 (大阪市).
15. 2005年12月, 第2回浜名湖カンファレンス, ホテル白砂亭 (浜松市).

#### 座長

1. 2011年10月, 日本経済学会 2011年秋季大会, 筑波大学 (茨城県).
2. 2011年9月, The European Conference on Banking and the Economy, Winchester Guildhall (Winchester, イギリス).
3. 2009年6月, International Conference on Policy Modeling (EcoMod2009), University of Ottawa (Ottawa, ON, カナダ).
4. 2007年3月, The Third International Workshop of Joint Research Study Group “EU Economy” of EUIJ Tokyo Consortium, 一橋大学 (東京都).

#### 研究会・セミナー報告

神戸大学 (神戸市, 2006年11月), 政策研究大学院大学 (東京都, 2009年12月), 財務省 (東京都, 2011年9月), 千葉経済大学 (千葉市, 2009年11月), 東京大学 (東京都, 2006年10月), 富山大学 (富山県, 2006年12月), 長崎大学 (長崎県, 2006年10月), 一橋大学 (東京都, 2010年12月, 2009年11月, 2008年6月, 2006年11月, 2005年5月), Columbia University (New York, NY, 米国, 2008年11月)

#### レフェリー

応用経済学研究、兼松フェローシップ, 金融経済研究, 生活経済学研究, 一橋商学論叢 (2), *Applied Economics* (3), *Applied Financial Economics* (2), *Japan and the World Economy* (2), *Journal of Asian Economics*, *Journal of the Japanese and International Economies*